

□ 複合施設の設置及び運営に関する懇談会
第4回 児童育成施設分科会 議事録要旨

日 時	平成 22 年 1 月 29 日 (金) 19:00～21:00
場 所	荒川区役所 4 階 庁議室
出席者	<p>〔委 員〕 阿久戸光晴分科会長、小林敦子副分科会長、志村博司委員、竹内捷美委員、吉田詠子委員、齊藤邦子委員、上田寛子委員、高田忠則委員、仲村 威委員、北川嘉昭委員、高梨博和委員、友塚克美委員</p> <p>〔オブザーバー参加〕 濱島計画課長、小泉児童青少年課長、佐藤社会教育課長、鈴木指導室長</p> <p>〔事務局〕 飯田特命担当課長、中野企画係長、谷井企画係主査、須田主事</p>

1 [事務局説明]

第3回(視察)のまとめ、配付資料の説明(複合施設整備の進め方、児童育成施設の事業展開例、複合施設イメージ、児童育成施設とふれあい館の位置づけについて、児童育成施設分科会まとめ(案))

2 [意見交換]

児童育成施設分科会まとめ(案)について

(1) [2] 基本的な考え方 の 2 児童育成施設の基本理念の部分について

- ・考え方に『児童憲章』の理念を加える。「児童を守る」という価値観の方向性を加える。
- ・「遊び」だけでなく「学び」の要素を加える。基本理念に加えることにより、機能や期待される事業内容等のすべてに反映する。
- ・対象年齢に高校生は入っていないが、来るものは拒まないという姿勢であるべき。
- ・「障がいをもった子どもも含まれる、すべての子どもたち」という視点をもつ。
- ・基本理念 (2)〈親、保護者〉と(3)〈地域〉に対しての考え方を整理すること。
- ・「(子どもたちが受け身ではなく)自主的に成長していくことを支える、支援する場」という視点を加える。

(2) [3] 役割・機能について

- ・子育て支援が全面に出ている。違和感がある。
- ・「小中学生の自主的な活動を支援する場、小中学生が役割を担える場」といった機能を加えてはどうか。

- ・4つの機能は並列ではないのでは。既に行っている子育て支援策（子ども家庭支援センター等の事業）と差別化を図るべき。
- ・機能に軽重はある。
- ・「これから先の将来のことをやっていく」という視点が必要。
- ・「集いの場」としてはふれあい館もある。「学びの場」にすれば、図書館とつながり、「ともに遊び、ともに学ぶ」ことで「交流を作り出す」ことにもつながる。

(3) [4] 期待される事業内容の「体験のプログラム」について

- ・目的をはっきりさせたいうえで、多様なプログラムをそろえる。選択肢を豊かにすることは排除しない。が、それは季節性やシリーズ性に配慮し、可変性に満ちた設計とする。
- ・総花的になってはいけない。
- ・的が絞れなくなるので、図書館、文学館があるので、文学、本、絵本、ぬり絵、読み聞かせ、紙芝居、童謡などを中心に絞った方がいいのではないか。
- ・科学的なものはここでは無理、地域に集う場所は他にもある。運動はスポーツセンターでできる。多く列挙してもできることは限られる。
- ・小中学校教育との連携（クラブ活動なども含めて）が必要。
- ・プログラムの企画は運営企画力を生かすためにも、最大公約数で何でもありにしておくべき。堅牢な固定物は作らなくても、縄のぼりのような体力アップの部分も欲しい。

(4) [5] 施設展開の方向性について

- ・整備における方向性・留意点として、環境に配慮した建物という視点を盛り込む。
- ・ローコストでできる創造空間、魅力ある空間とすべき。

(5) その他

- ・施設の基本理念の中に、複合施設として三つの施設を統合した理念があるといいのではないか。三つの施設で分担しながら、「豊かな人格形成を」的な複合施設のコンセプトを盛り込む。
- ・三施設を一体化するイメージが必要なのではないか。図書館、文学館と児童育成施設がかけ離れてはまずいのでは。
- ・図書館、文学館との連携は、企画（ソフト）面でカバーすればいいのではないか。一緒の建物にあることで融合は十分にできる。
- ・図書館が中央にあって、両ウイングの文学館と児童育成施設のつなぎ手となる。

3 [事務局説明] 今後の懇談会及び分科会について

- 第2回懇談会 平成22年2月23日（火）午後7時から
- 第5回分科会 平成22年3月9日（火）午後7時から
- 第3回懇談会 平成22年3月24日（水）午後7時から